

令和6年3月22日

令和5年度 「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立北城小学校
校長 三 浦 亮

事業テーマ	地域を大切にして生き生きと活躍する子どもの育成 ～地域における教育素材を生かした新しい学びの場の開拓を通して～	
取組の目的	令和元年度より継続して上記のテーマで事業に取り組んでいる。さらに継続し、深めていくことが子どもたちの豊かな成長、発達を支えていくと考える。コロナ禍の状況が刻々と変化しており、取り組める事業に見直しが必要となっているが、今後も学校を中心に、地域や保護者との連携を大切に保ちたい。地域との連携の強化を通して、子どもたち一人ひとりが、地域への愛着を持ち、地域社会の一員として、将来、役割を果たしていくための力を育ませたい。	
区 分 (○印を付ける)	新規事業・継続事業（総事業年数 5年間、5年目）	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	・地域との交流のための内容を精選して行った。 ・地域合同の運動会をはじめ、地域の農家との交流を主体とした農業体験や地域の教育機関と連携した事業を行うことができた。	
事業名	事業内容	実施時期
北城学区体育振興会との共催による運動会	・北城学区体育振興会と北城小学校が合同で行う。地域住民と教職員・児童が連携して企画・運営を行うことで、地域が一体となった運動会を作り上げ、児童が地域の一員であるという意識を高める。令和3年度まではコロナにより実施できなかったが、4年度はスポーレ春日井を借り上げ、密を回避して行うことで、長く愛されている行事を再び行うことができ、令和5年度は場所を北城小運動場に戻し実施することができた。	10月
北城親子会・PTAボランティアとの連携	・北城親子会・PTAボランティアと連携して、児童に幅広い活動を体験させることで、地域の人との関わりを体感する機会にできた。ふれあいセミナーや読書週間期間中の読み聞かせなどに参加していただき、交流を深めていった。	通年 読書週間 (年2回)
地域内の教育機関との連携	・春日井泉高校の書道科指導者を外部講師として招き、高校生による書道パフォーマンスを見せていただいた。また、高校生と一緒に大きな作品を作る活動を通して、「書のまち 春日井」の一員として、書道への興味・関心を深めた。また、6年生が中部大学を見学したり、地域の幼稚園・保育園の園児が本校を見学しにくる機会を作ったりすることで、交流をすすめ、子どもたちの心のつながりを深めた。	書道教室（3月） 中部大学見学（1月） 幼保学校見学（2月）
地域素材の活用と交流	・地域の人材を発掘し、物づくり・昔の様子等を教えていただいたり、一緒に取り組んだりする機会を設けようと考えた。今後もこれまでのつながりを維持できるよう、地域の方々との連絡を密にした。	通年

取組の成果

① 北城学区体育振興会との共催による運動会

コロナ禍が明け、行事計画見直しが行われた。今年度についても、年度初めから打ち合わせを密にすることで、長年続いてきた北城学区体育振興会と北城小学校合同の運動会を北城小の運動場で行うことができた。地域住民と教職員・児童が連携して企画・運営を行う内容であり、一体となって盛り上がり、成功を収めることができた。今後も状況に鑑みながら開催方法を探り、地域と連携していきたい。

② 北城親子会・PTAボランティアとの連携

年3回の読書週間では、保護者の方による読み聞かせを実施した。新刊図書の登録や、図書館の整理・整頓もお手伝いしていただき、児童の図書館指導に大いに役立ち、図書館利用の回数が増えた。

地域の農家の方に教えていただき、田植え・稲刈り体験を経て収穫した「米」について、子どもたちは、学習したことを新聞にまとめるなどし、米に関する様々な知識を得るとともに、米作りの大変さとその価値について学び、深く考えることができた。また、それら体験の様子を1年生も見学し、学校全体で地域とのつながりを実感するとともに、地域の様子を知る機会とすることができた。

③ 地域内の教育機関との連携

・幼稚園・保育園との交流会（1年生）

2月9日に近隣のいとう幼稚園・いとうたんぽぽ保育園の園児が学校を見学に来る「幼保学校見学会」を行い、小学校の校舎や校地の様子、普通教室や特別教室での授業の様子を楽しみながら見学してもらうことで、子どもたちの小学校への期待を膨らませることができた。

・大学での授業受講（6年生）

中部大学エクステンションセンターと連携し、1月26日に大学を訪問した。6年生は見学の中で「将来を見据えて専門的に学ぶ」自らの姿を想像しており、キャリア教育のよい機会となった。

・春日井泉高校書道部との交流会（3年生）

3月21日に春日井泉高等学校書道部の顧問・部員に来訪していただき、書道体験を実施した。会場を体育館とし、高校生書道部の書道パフォーマンスを見学した後、高校生たちと一緒に、本校校歌の歌詞を大きな紙に書く活動に取り組んだ。初めて触れる「書」のアートに子どもたちは喜び、出来上がった作品をバックに記念写真を撮った児童の表情からは、充実感が満ち溢れていた。ここで出来上がった作品は、毎年入学式の折に体育館壁面に飾られており、新入生が小学校の活動に胸を膨らませるよい素材にもなっている。

④ 地域素材の教材化

本年度はコロナ禍からの復帰のため、さまざまな行事・事業計画を見直した。あらたに地域の人材を発掘したり、外部の方を教室に招いて講義・授業に取り組む活動を進めることはできなかったが、地域内の神社・田畑等についての歴史や現在の状況等を調べて新聞等にまとめたりする活動はできた。地域とふれ合う活動を通し、自分が住んでいる地域についての関心を高め、児童の学びへの意欲や地域を愛する意識の向上につながった。

課題

本校では、地域との連携、地域素材の教材化等を通して「子ども一人一人が、地域に愛着を持ち、将来地域社会の一員としての役割を果たしていくための力」を育んでいくことをねらい、事業を継続してきた。令和5年度の活動においても、体験を終えた児童らの姿から、豊かな成長、発達を支えるための広範囲な領域にわたる、多種多様な教育活動の展開の必要性を再確認することができた。

来年度以降も、以前より続いていた交流や、新たなつながりを作り上げていきたい。これからの北城小学校の教育のあり方を、職員全体で模索していきたい。地域に多くある豊富な教育素材・人材を、学年の発達段階に応じて有効的に教材化していくことを北城小学校独自の教育テーマとしてしっかりと捉え、児童とともに、地域についての理解を深めていけるようにしていきたい。